

(挨拶、資料説明省略)



<温泉区>

7/20のふれあいトークで、一方通行になる場所である温泉区の住民から、「一方通行に関する話を何も聞いていない」という声が上がリ、「何も説明を受けておらず、実証実験はなぜするのか?」と問われた。そこで、実証実験をする前にもう1度、市から説明をしてほしい。これまでも、数回話し合いの機会は設けていたものの、全員が参加していたわけではなく、中には激しい意見を言われる方もいた。その中では、「アンケートを小学生に聞いてどうするのか?」という意見もあった。将来に向けて子供たちの意見を聞くというのはわかるけど、「実際に関わっている温泉区民のアンケートが取られていない」ということで、「ぜひ、説明会の開催と合わせてアンケートの方を行ってほしい」「そのアンケートの結果が出てそれを公表した上で実証実験を行ってほしい」「そうしてもらわないと困る」という意見を言われた。また、日程についても、以前は9月頃と言われていたと思うが、「アンケートの結果が出る前に実証実験をするということになれば阻止したい」とも言われている。とにかく、結果が出て、説明会をして、反対意見の方もいるだろうけど、実証実験の中身がある程度理解できてからなら構わないだろうということ。こういう意見を温泉区の代表として今日の検討会の場で発言してほしいということで言われてきたので、よろしくお願ひしたい。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

反対意見の人たちは、説明会には来ていなかったのか。

<温泉区>

来ていなかった人もいるし、全然知らなかったという人もいる。説明会をやってくれという意見は検討会の場で発言してくるけど、その説明会にも参加しなかったらおかしいよという話はきちんとしている。反対する人は、ちゃんと来て話を聞かないといけないし、それでも今のままでは駄目でしょう、反対するなら対案を出してくれと、反対反対言うばかりはよくないよとも言っている。だから、説明会の時に、意見交換をやってもらって、その時に一緒に温泉区民からのアンケートを取ってもらい、そのうえで実証実験に入ってほしい。

<温泉区>

今回のメインは温泉1区と3区になるので○区の立場で意見を言うのはおこがましいが、ふれあいトークの中で、全然聞いていないという人がいたことを不思議に思った。何回も説明しているのにそういう人がいるということは、その場に来ていない人に、代表の方が情報を流していないのではないかと感じた。説明にあった水木しげるロードの実証実験はH27年だから3年位前になるけど、進捗状況や結果は上がっていないのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

ここは実際に整備を進められている。実証実験を行った結果やりましょうということになり、もう工事も開始し

てほぼ完了に向かっていると聞いている。

<温泉区>

ふれあいトークの場で、反対の方々から「実験したところはどこでも失敗している」と言われた。実際そうなのかどうか私はよく知らないけど。

<事務局(建設・新幹線課)>

事例を調べると、全てが本格実施にまで向かったというわけではない。実験をしてみて、うまくいかなかった、実施には至らなかったという事例もある。その割合がどれくらいかまではわからないが、実例としては両方ある。

<温泉区>

一方通行の区間を、最初のころは JR の車庫から嬉野温泉駅間だったように認識していて、その後聞きそびれてしまったのかもしれないが、田代製材から楓ノ木食堂のところまでになっているのは、なぜ距離が短くなったのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

もともとの検討区間としては、JR のところからバスセンターまでを検討区間として挙げていたが、実験をするにあたっては、全区間をやるべきなのか、ということや、全区間となるとかなり大掛かりになってしまい、費用面との兼ね合い等もあって、あくまでも今回は実験なので、迂回ができる最低限のエリアを考慮し、まずはこの区間でやってみようということで設定した。

<温泉区>

ということは、あくまでも実証実験の区間がこの区間ということであって、最終的には温泉駅から JR までも考えているということか。

<事務局(建設・新幹線課)>

やるとした場合の最大区間がこの区間になるのかなと考えている。ただし、実験の結果、この区間だけでは効果が薄い、もっと広げないと効果が出ないとなるか、この区間でも十分効果があるということになるか、それを含めての実験と考えている。

<温泉区>

そのあたりも説明会では聞かれると思うので、うまく説明をしてもらいたい。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

何人くらいがそんなに激しく反対しているのか。

<温泉区>

反対は重鎮の方ばかり。

<温泉区>

とにかく、説明会の案内をして、そこでアンケートをもらって、その結果を出してからやってもらえたらいい。将来のためには何かをしないといけないわけだから。

<事務局(建設・新幹線課)>

確かにアンケートを取って進めるのも重要とは思いますが、やってみないことには良し悪しもわからない。先にアンケートだけをやっても、単純に賛成・反対の意見しか出てこないと思われる。市としては、今回はあくまでも実験ということで、案内文書にも書いているように「一方通行を前提としたものではありません」という捉え方で、まずは実験をさせてもらい、途中や事後にアンケートを取らせてもらうという進め方でいきたいと考えている。

<温泉区>

だから、説明会をしてみずアンケートを取りますと、それで反対があっても実証実験はやります、事後のアンケートも取ります、という形にしてもらえればそれでいいんじゃないか。二度手間にはなるけど。結局、事前アンケートはなぜ温泉区民から取らないのか、小学校だけなのか、という言い方を強調されていた。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

なんでも新しい政策を始める時には住民の意見を吸い上げることが重要だと思う。これまでもアンケートは自分が知っているだけで2回あった。今の歩道に切り替える時に1回アンケートを取っている。その時は商店街からは賛成意見が多かった。その後にもう1回取られたアンケートでは反対意見が多くなった。結果的に歩道は今のよう形になった。その時は、車道を蛇行させて歩道が広いところや狭いところがあって、駐車帯があって、一方通行ではなかったけど、相互通行で今みたいな案だった。そしたら、歩道の幅がうちの前は狭いのに向こうは広いといった個人的な意見が色々出てきて、結果的に今の状態になった。アンケートを取れというのは反対派の作戦だろうから、実証実験をやってみて、事後に、ほらやっぱり悪かっただろうという意見を取った方がいいと思うが。

<温泉区>

知らなかったと言い張る人がいて、とにかくアンケートをしてもらいたいという要望が出ている。説明会のその場でしてもらったらいだけ。

<温泉区>

温泉区でもかなり温度差がある。まずアンケートをしてくれという人もいるけど、中には早く実験をやってみればいいという人もいる。区長としては区民の意見を聞いて、言いたくないことも言わなければいけない。

<事務局(建設・新幹線課)>

仮に、事前にアンケートを取るとした場合、どんなアンケートにするべきか。自由意見的な感じがいいのか。

<温泉区>

とにかく、意見があればアンケートに書いてくれということでもいいんじゃないか。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

「社会実験を行います。それについてご意見をください。」「社会実験をしない方がいい、その理由」「社会実験をしてもよい、その理由」みたいな感じか。

<温泉区>

反対が多かったからといって、実証実験をしないというわけではないし、そこは理解されている。ただ、何も知

らなかったということを強調されている。

<事務局(建設・新幹線課)>

説明については、今後も密にやるべきだとは思ってるが、説明の時には結局、じゃあいつやるんだ？という話になってくるので、できれば本日の検討会の中で日程を確定させてから、いろんなところに出向いて説明を重ねようと思っていた。

<温泉区>

アンケートについては、なぜ小学生に聞くのかという意見をかなり言われている。アンケートをやって、結果を出して、期間をおいて実証実験をやってほしいと。

<事務局(建設・新幹線課)>

小学生アンケートは、まちづくりに関するアンケートだったので、一方通行についてを問うアンケートではなかった。

<温泉区>

そこまでの説明がうまくなされていなかった。

<嬉野市商工会>

区長さんの立場で区民の意見を伝えられているということはよくわかるし、これが、一方通行の工事をすることに対してなら、まずアンケートを取れというのもわかる。でも、私たちは、検討会というこの場で、公の立場に立って、市役所と一緒にここまで積み上げてきた。本来なら、社会実験は行政の執行権の中でやれることだと思う。荒っぽくやるなら、市長の名前で「社会実験をやります」という通知 1 枚でやれること。それを、社会実験の段階で、実験するかしないかアンケートを取るというのは、ここに至ってはいい話だと思う。区長さんには大変申し訳ないけど、我々は公で話をしてきた。個人レベルの話ではない。個人的なことで言うなら、うちの旅館にとっても困ることだし、旅館組合だって困ること。嬉野の経済を支えているのは観光産業、それが、個々の痛みを捨ててなぜこういう話を進めているかという、嬉野は街のイメージ評価が非常に低いから。最近ではドローンで撮影したものを見せてもらって、嬉野にもいろんな顔があるんだなとも思ったけど、とはいえ、一番の顔である商店街を豊かなものにしようということ、数人の個の意見で、実験段階からつぶすという話はないと思う。この件に関しては、市役所は非常に丁寧に進められていると思う。

<温泉区>

実証実験については、もう予算もついていることだし、なにも中止してくれと言っているわけではない。何度も言っているように、この説明会に来た人たちに社会実験の重要性を十分に説明して、何も知らなかったではなく、もう聞いてるよねということを進めてもらったらいい。さっき言われたような、小学校アンケートはこういうものだったということなど、私もよく分かっていなかったから、逆の方に理解されている感じになっている。そのあたりをもっと詳しく説明すればいいのではないかな。

<温泉区>

区長の立場ではなく一般の立場として発言させてもらいたい。小学生は今から嬉野を支えていく宝なので、子供へのアンケートは非常に大事だと思う。アンケートの中で「怖かった」「危なかった」という意見があったし、観光客からもそういう声をたくさん聞く。あの商店街はなんだ、車がいっぱい止まっている、止めて買物してるの

か、自分たちは遠慮しながら通らないといけない、という意見を直に聞いた。やっぱり街並みをきれいにしないし、今の状態では事故の危険もある。前回は話が合ったけど、武雄は非常にスッキリしていて、嬉野もあれを目指さないといけないと思う。また嬉野温泉に行きたい、散策してお茶を飲みに行きたいと思ってもらわないといけないのに、今の状態でそれはできない。子供が歩いていてもあぶない。だから、5,6年生の意見は大事だと思う。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

検討委員会は今日で5回目だけど、シーボルトの湯を作る時にも検討会があって、その時も知らないという人はたくさんいた。検討委員会を立ち上げて進めている以上、それを尊重して段階を上がっていかないと、参加していない人が後から言った反対意見を聞いていたら何も進まなくなる。

<温泉区>

結局、一方通行ありきだろうと言われる。それは違うといっても、絶対そのまま一方通行にするつもりで、その前提の実験だと言われていて、そのあたりの見解の違いが大きい。

<事務局(建設・新幹線課)>

説明会、意見交換会は、今後密に回数を重ねていきたいと考えている。ただ、アンケートについては、あくまでも実験をやってどうだったという効果検証の形で各世帯から取ろうと思っている。今アンケートを取ると、実験の是非に意見が集約してしまい、賛成が多かったから実験をやりますとなると、それも乱暴な形になってしまうので、事前のアンケートは取らないけど、理解を頂けるよう説明を重ね、実験をやった後にどうでしたかというアンケートをしっかりとって、それをもとに最終的に検証を行うということで進めていきたい。

<事務局(株)ケー・シー・エス>

コンサルのものです。区長さんの意見はとてもよくわかる。地元で説明をされた時に、聞いてなかったということが腹立たしさの原因になっていて、そんな状況の中、なぜ子供に聞くのかという話になったのだらうと思う。この道路空間デザインの検討は、一方通行化を前提として進めているわけではなく、道路空間はどうあった方がいいのか、これを地元の関係者に直接聞いてしまうと、先ほどのように、いや賛成だ、いや反対だとなってしまう。だから、あまり利害関係のない人、客観的に道路空間はどうあった方がいいのか、特に子供たちはどういう目で見ているのだらうということを知りたい、この小学校を介したアンケートを実施し、またここにいらっしゃる方々に客観的に物事を判断していただき、社会実験も一つの方法だよなという結論に至っている。区長さんがおっしゃるように、聞いてないということは地元の人にとっては非常に腹立たしいことだと思う。だから今回、デザイン検討会と嬉野市が中心となって説明会を実施するという話になっているので、その説明会の中にもぜひ参加していただいて、今までの経緯ややろうとしていることを説明し、そして、実証実験をやった結果に対して、観光客アンケート調査、これは外から来る方にもう1回客観的に見てもらうため、そして、市民アンケート調査、これは去年やった小学校の父兄と子供さん方、それから、周辺住民アンケート調査、これが実際に区に住んでいる方のご意見となり、最後の商店街アンケート調査が実際に商店街で商売をされている方のご意見、こういった方々から広くご意見を聞く形でやらせてもらえないか？という説明をされたらどうかと思った。要望が出ているのに、はなからアンケートをやらないというもおかしな話になるので、ちゃんと説明をしたうえで、意見はちゃんと実証実験の時に聞くし、実証実験の計画は、客観的な立場で道路空間デザインとはどうあった方がいいのかということに対する一つの方向性として考えている。ただし、まだこれが最終結論として決まったわけではないので、まずは実証実験で見てもらい、その結果で判断するので、その時に商店の方や周辺住民の方には今一度どういう風に感じたのかをお聞かせくださいという説明をされたらどうか。

<温泉区>

了解した。

<温泉タクシー株>

地元の方にとっては、一方通行になると不便だということがあるので、一方通行化を前提にされているんだろうと懐疑的な感じに陥ってしまっているようなので、説明のみならず、この実験は一方通行化を前提としたものではなく、実験をしてアンケートの中でいいところと悪いところを確認して、よりよい方向に進めていこうとするもの、決して最初から一方通行をするためのものではないということを、書面にしてお配りしたらいいのではないかと。口約束という言葉があるように、口で言ってもあの時はああだこうだとなるかもしれないので、流れをきちんと説明する文書を配布してもらって、それプラス、説明会は説明会としてやっていただく。不安を感じている方の不安を和らげる取り組みが必要ではないかと思った。

<事務局(建設・新幹線課)>

説明会に来られない方もおられるだろうから、なるべく、わかりやすい説明チラシ的なものを用意して配布していくべきかなと思った。これまでの流れをどこまで簡単にまとめ切れるかという部分はあるが、今のチラシだけをポンと送ると一方的な感じを受けられると思うので、丁寧な説明もつけて進めていきたい。

<嬉野市商工会>

商店街の中で反対の方は、全く聞く耳を持たない方がいる。実験だけじゃなく、そのあと検証を経て決めるんだと言っても、もうそれすらも駄目だと、実験すら反対だと伝えてくれと私も言われてきた。とにかく、実験＝一方通行化が先にあるから絶対反対、一方通行にはしてほしくないということ。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

そういう人たちは、道路デザイン検討の結果、よかったねという賛成意見がどんなに多くあっても、自分たちは反対を主張するだろう。

<温泉区>

一方通行ありきだと思い込んでいて、そうじゃないということが浸透していない。

<嬉野市商工会>

ありきじゃないかもしれないということはわかっているけど、もうその話自体が反対という感じ。

<温泉区>

本通りは自分たちの駐車場と考えられている。昔からそうなっている。

<温泉区>

佐世保四ヶ町のように、駐車場に車を止めて買物するのが普通だけど、嬉野のような小さい街の中で今の状態でやってきていて、急にこのような話が出たから、見解の違いもあるのではないかと。

<温泉区>

前回警察の方に駐車違反の取り締まりをしてくれと言ったから、取り締まりが厳しくなってどんどん駐車違反が取られている。豊玉神社は駐車場がないから、仕方なく前に車を止めてお参りに行って、その間に貼ら

れた人もいる。捕まえないといけない車を捕まえずに、捕まえないでいい車を捕まえている感じもある。

<嬉野温泉商店街協同組合>

商店街の中にも反対される方は、駐車場問題をかなり言われる。駐車場がないから、お客さんは店前に車を止めるしかないという言い方しかされない。その考えが普遍的にある方は、絶対反対と言われる。

<(一社)嬉野温泉観光協会>

よく売上げが落ちる、片側通行だとお客さんが買いに来なくなるという言い方をされるけど、その方たちは日曜日に店を休まれている。お客さんが一番多い日曜日に店を開けない方もいる。売上げが落ちない努力をすれば、売上げは上がると思う。

<嬉野市商工会>

今度は堂々と止められるスペースができるのではないのか。

<事務局(建設・新幹線課)>

昨日警察で確認をしてきたが、もともとこの区間は駐車禁止区間なので、本来はすべて違反車両になる。今回荷捌きスペースを作るにあたってはどうなるかと聞くと、駐車禁止区間のままであるが、停車は妨げないと言われた。駐車と停車の違いは何かということになるが、すぐ移動ができる状態は停車として認めてもらえるが、止めっぱなしは駐車となる。だから、このスペースができたからといって、止めっぱなしにできるスペースができるわけではない。今の状態も止めっぱなしが多いので本来はすべて違反となる。荷下ろしやタクシーの乗降は停車扱い。市としては、交通規制をかけることになるので、2か月前くらいから広報をする必要があるため、先に実験スケジュールをこの日程で固めさせてもらい、この間に地元の方々となるべく回数を重ねて説明をしていくということ、実験の結果については、広くアンケート調査をしながら最終的な検証をするという流れで進めていくことをご了承いただきたいと思っている。

<温泉区>

温泉区は商売人が多いから、説明会にしても何にしても金曜日・土曜日は避けてほしいと言われている。

<嬉野市商工会>

ずっと聞いていて思うのは、自分の店や家が困るということ言われている感じだが、私のところの旅館だって困ること。それでも、大きな視点でとらえるべきで、嬉野の将来、子供たちも含めた嬉野に住んでいる人、外からやってきて嬉野市にメリットを与えてくれる観光客、公と個の戦いというか、お客さんが増えれば店は潤うかもしれない。あんまり個人的な意見が出てくると何もできなくなる。区長さんが非常に困られているのはよく分かるが、本格工事をするわけじゃなく、社会実験の段階だということ。全然違う話になるが、自宅前の細い道で水道工事をするから一方通行にしますという場合は看板が立つだけ、よくて工業者が1件1件回るくらい。これを、反対！といったところでどうにもならない。1週間の一方通行とそんな工事を一緒にしてはいけないかもしれないが、新しい嬉野はよくなったね、豊かになったねというお客さんの声やそういう視点を落とさないようにしていかないとけない。

<嬉野温泉旅館組合>

嬉野は外からたくさんのお客さんに来てもらっていて、今はインバウンドの方も増えていて、街歩きをたくさんされている。そういうお客様からのご意見、こういう風にしてもらったらいよいよねという声を、今反対をされている

方々に見ていただいて、少しでも納得材料にしていいただければと思う。

<嬉野温泉商店街協同組合>

意見交換会の日程はまだ決まっていないということだが、決まり次第早目に知らせてもらいたい。以前商店街で説明会を開いてもらった時は、2～3日前だったので、急には参加できないという方がいた。

<温泉タクシー(株)>

タクシーは運行距離、走っていくらになるので、一方通行によってルート変更をして料金が上がる場合があると思う。お客様の理解を得られるかということ。

<(株)佐賀タクシー>

実験をすれば利害が反する人達が出てくることはやむを得ないと思う。より意見を出してもらって、納得に近い形に近づける努力が必要だと思う。そのための実験であることを明確にってもらって進めてもらいたい。交通事業者としては、お客様の立場で見ると、そのために不利になったということも出てくるだろうけど、それも実験の一部と認識しているので、より多くの人に知らせるということが大事になってくると思う。それと、その後、不信任感が生まれないように結果をきちんと伝えるという説明を、最初に出すか出さないかが、この実験がうまくいかいかないかにつながるのではないかと思った。

<嬉野小学校>

一方通行化をすることによって、街並み、街歩きが素晴らしくなったという事例もあるし、お客様が増える可能性もある。考え次第だと思うし、短期ではなく、中長期的な考え方が必要だと思う。

<杵藤土木事務所>

実証実験をやって、その効果は具体的な数字とアンケートから出されるということだったが、その結果をどう評価して、それが今後のインフラ整備などに反映されるのかという点も伝えてあげたら、この実証実験の賛否についても、もう少し心の中でスッキリ整理ができるのかなと思った。

<事務局(建設・新幹線課)>

最後の確認になるが、市としてはこのチラシの日程で準備を進めさせてもらいたい。その間、なるべく多くの説明会を開催して、少しでも浸透させられるように努めていきたいと考えている。

(市長挨拶 省略)